

第4次奥州市地域福祉活動計画〔概要版〕

(令和8年度～令和12年度)



■ 基本理念

だれもが心の豊かさと幸せを実感できる

「福祉のまち奥州市」

だれもが安心して暮らし、

困ったときは支え合える地域を目指します。

■ 奥州市の支え合いの仕組み

気づき → つなぐ → 共有 → 支援

気づき	ご近所福祉スタッフ
つなぐ	民生児童委員
共有	地域セーフティネット会議
支援	地域福祉コーディネーター

※地域の中で困りごとに気づき、話し合い、必要な支援につなぎます。

■ 地域セーフティネット会議の役割

- 気になる世帯の共有
- 支援方法の検討
- 見守り・生活支援の役割分担
- 災害時の避難支援確認

👉 地域福祉の中核機能



■ 計画の目的

本計画は、市民主体の支え合い活動を基盤として、地域の生活課題に対応するための実践計画です。

奥州市地域福祉計画（理念計画）と一体となり、具体的な地域福祉活動を推進するものです。

少子高齢化や人口減少、孤立、8050問題、生活困窮など、複合的な課題が増加する中で、

「地域の力」と「専門職の支援」を組み合わせた体制づくりが求められています。

■ 重点事項（新たな視点）

- 地域福祉コーディネーターによるアウトリーチ強化
- 地域セーフティネット会議の全行政区定着
- ご近所福祉スタッフと民生委員の連携強化
- 社会福祉法人の地域貢献の活用
- 重層的支援体制整備事業との一体化
- 多世代交流・居場所づくりの推進

奥州市地域福祉活動計画

実践
計画

- 1 住民主体による安心・安全な地域づくり**
 - ・世代をこえて支え合い、一緒につくるまち
 - ・地域の困りごとに気づき、支え合いにつなぐ意識と参加の機会づくり
 - ・人が集い、つながりが生まれるまち
 - ・防災と福祉がつながる安心のまち
- 2 地域福祉を支える地域組織・財源・人材基盤の強化**
 - ・社会福祉法人との協力を通じて住民が共に支え合うまち
 - ・ボランティア・市民活動が活躍できるまち
 - ・地域づくりを支える新たな財源づくり
 - ・地域で協力し合い、ともに成長していくまち
- 3 制度の狭間に対応した包括的な相談・支援体制の整備**
 - ・権利が護られ誰もが安心できるまち
 - ・ひとりにしない支えあいのしくみづくり
 - ・仕事や生きがいにつながる環境づくり
 - ・複合的課題に対応する制度横断的支援体制の構築

① 住民主体による安心・安全な地域づくり

地域における生活課題を住民が自分たちの課題として共有し、互いに支え合いながら解決していく地域づくりを進めます。多世代交流、居場所づくり、見守り活動、防災と福祉の連携強化など、身近な地域で取り組める活動を広げることで、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。また、地域セーフティネット会議等の場を活用し、地域の状況に応じた支援体制づくりを住民とともに進めていきます。

① 世代をこえて支え合うまち

- 子育て世代の不安や孤立を防ぐ
- 子どもから高齢者まで交流を進める
- こども食堂などの活動を広げる学校や地域で福祉について学ぶ

👉 年齢に関係なく支え合う地域へ

② 気づきから支え合いへ

- 地域の困りごとに気づく
- 気づいたことを共有する
- 支援につなげる

👉 小さな気づきが支援の第一歩です

ネット会議

③ 居場所づくり

- 気軽に集まれる場所を増やす
- 誰でも参加しやすい環境をつくる
- 相談や支援につながる場にする

👉 「ひとりにならない」ための場づくり

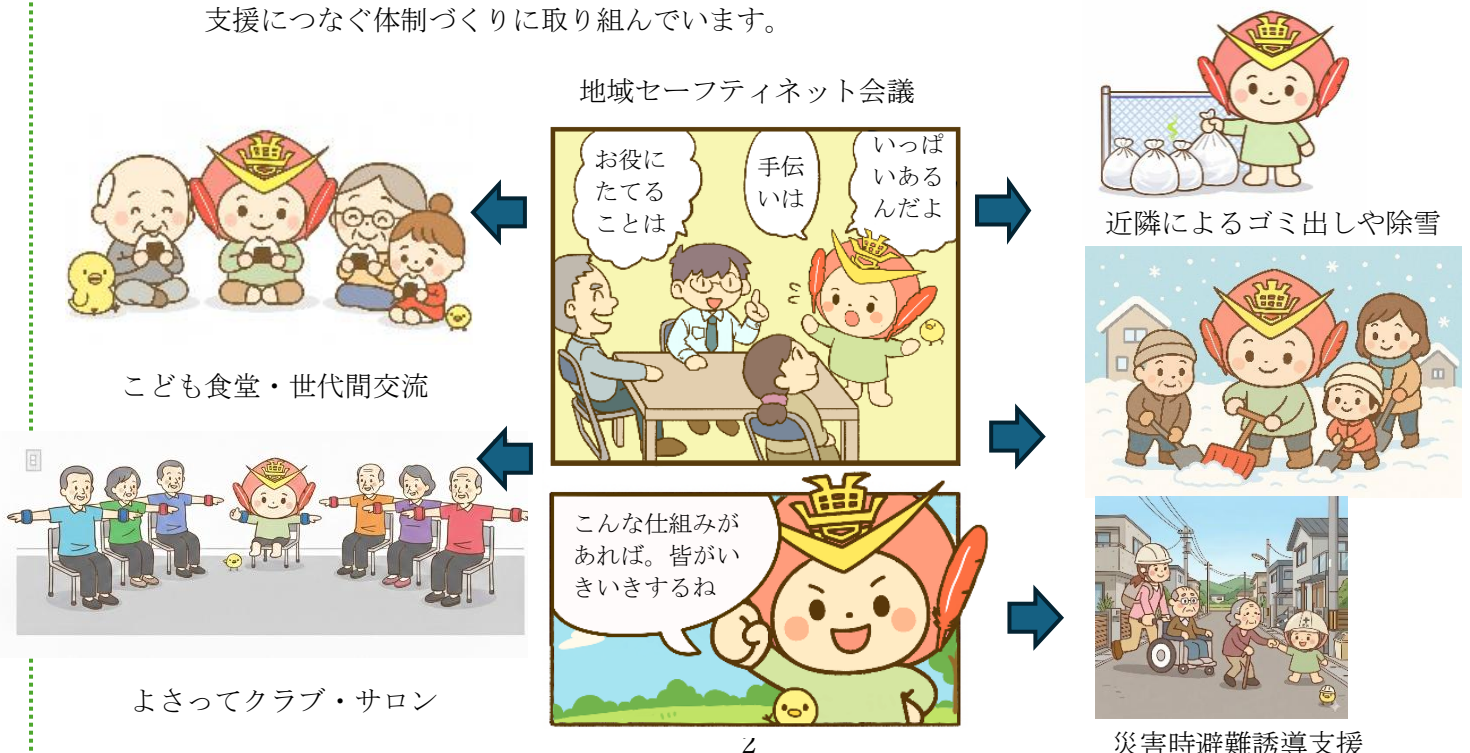
④ 防災と福祉の連携

- 避難が必要な人を把握する
- 支援する人を決める
- 地域で安否確認・避難誘導訓練を行う

👉 災害時も支え合える地域へ

自治会等における要援護者の見守り、支援の仕組みづくり

奥州市社会福祉協議会では、ご近所福祉スタッフによる地域見守り、要援護者を把握する地域セーフティネット会議など独自の地域福祉活動に取り組んでいます。令和7年度から、地域福祉コーディネーター11名を配置し、地域の要援護者を見逃さず、支援につなぐ体制づくりに取り組んでいます。



② 地域福祉を支える基盤づくり

地域福祉活動を継続的に進めるためには、地域の団体、社会福祉法人、ボランティア、市民など多様な担い手が連携し、それぞれの力を発揮できる仕組みが必要です。このため、組織的な連携、活動財源の確保、人材の育成・支援などを通じて、地域福祉を支える基盤づくりを進めます。

① 社会福祉法人との連携

- 福祉施設などが地域活動に参加
- 地域と協力して支え合う
- ☞ 地域の力を広げる



デイサービス車両を利用した自治会等の
買い物送迎

② ボランティア・住民参加

- ご近所福祉スタッフの活動を広げる
- 有償ボランティア（ささえあいの会）を充実
- 災害時の支援体制を強化
- ☞ 誰でも関われる仕組み



ささえあいの会（生活支援サービス）

③ 新たな財源づくり

- 地域活動を応援する募金の仕組み
- 新しい活動の支援
- ☞ 活動を続けるための支え
- ☞ 誰でも関われる仕組み

④ 人材育成・組織強化

- 研修や学びの機会を増やす
- 担い手を育てる
- ☞ 活動を続ける人を増やす

（活動指標と目標の視点）

本計画では、各目標の達成状況を分かりやすく示すため、現状（R6）、計画開始年（R8）、計画最終年度（R12）における要点となる活動指標を掲示します。年度ごとの詳細な数値や進行管理については、計画書に整理しています。

対象事業	活動指標	現状値	目標値	
		R6 年度	R8 年度	R12 年度
小地域ネットワーク事業 （地域セーフティネット会議） （ふれあいいきいきサロン事業）	・ ネット会議実施回数・参加者数「ネット会議の開催回数、参加人数」	245 か所 750 回 7,159 人	250 か所 760 回 7,200 人	270 か所 800 回 7,400 人
	・ 生活支援件数	178 か所	183 か所	208 か所

③ 包括的な相談・支援体制の整備

ひきこもり、孤立、貧困、困難を自覚できない世帯、権利侵害など、複雑で多様な課題に対応するため、制度の狭間にあるニーズにも応えられる包括的な相談・支援体制を整えます。分野や機関をこえた連携、アウトリーチ、権利擁護、就労支援などを一体的に進め、必要な支援が確実に届く地域づくりを進めます。

① 権利擁護

- 判断が難しい方の支援
- 財産や生活を守る制度の活用

👉 安心して暮らせる環境づくり

② アウトリーチ支援

- 困っていても相談できない人を訪問
- 必要な支援につなぐ

👉 支援を「届ける」



③ 就労・社会参加

- 働くことや社会参加の支援
- 生きがいや役割づくり

👉 社会とのつながりを支える



④ 専門職のスキル向上

- 支援する人の力を高める
- 複雑な課題に対応できる体制づくり

地域福祉コーディネーターの役割

地域福祉コーディネーターは、支援が必要な方を早期に把握し、アウトリーチを通じた相談支援を行います。関係機関や地域資源との連携・調整を担い、個別支援と地域づくりを結びつけながら、複合的な課題を抱える世帯への支援体制の強化を図ります。

重層的支援体制整備事業の取組み

制度の狭間にあり、支援につながりにくい世帯や複雑な課題を抱える人への対応を強化するため、奥州市では重層的支援体制整備事業を地域福祉活動と連動させて取り組みます。地域福祉コーディネーターの配置による「参加支援」「地域づくり支援」「アウトリーチ支援」に向けた一体的な実施に取り組み、地域福祉活動と相互に補完し合うものです。

本計画は、地域の中での「気づき」を大切に、人と人との「つながり」を広げながら、互いに「支え合う」まちづくりを進めるものです。住民のみなさんと、民生委員や地域福祉コーディネーターなどの専門職が力を合わせることで、困りごとを抱えた人を地域全体で支え、誰もが安心して暮らし続けることができる社会の実現を目指します。

このような取組を通じて、奥州市ならではの支え合いの仕組みをさらに発展させ、「地域共生社会」の実現につなげていきます。

発行

社会福祉法人
奥州市社会福祉協議会

〒023-0851

岩手県奥州市水沢南町5番
12号

電話 0197-25-6188